



また、気象庁が発表する火山に関する最新の情報を入手することも身を守るために重要です (<http://www.jma.go.jp/jma/menu/bunyavolcano.html>)。以下では、2014年9月27日に発生した御嶽山噴火を踏まえ、2015年8月4日に運用を開始した「噴火速報」について紹介します。

気象庁は全国の活火山のうち、「火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山」について常時観測を実施しています(図2)。50個の火山が対象となっており、「噴火速報」はこの50の活火山に対して発表します。

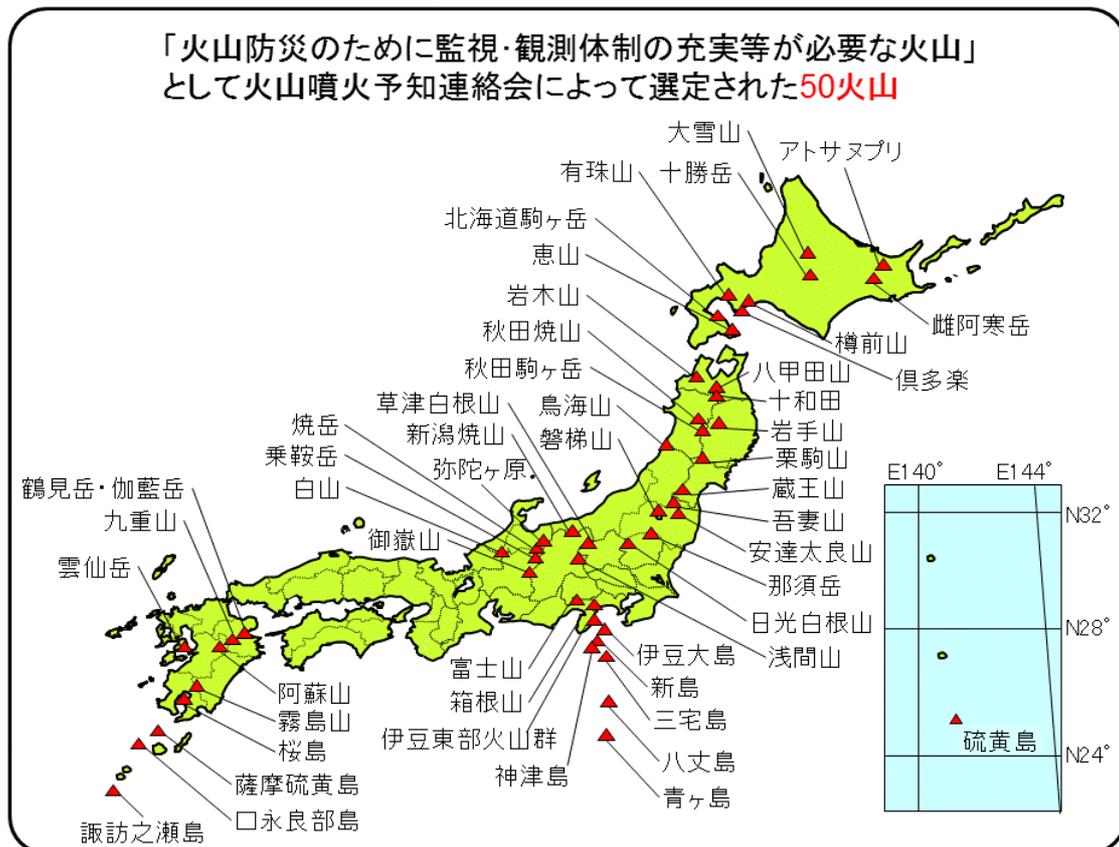


図2 火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山

「噴火速報」は噴火の発生事実を迅速に発表する情報です。登山中の方や周辺にお住まいの方に、火山が噴火したことを端的にいち早く伝え、身を守る行動を取っていただくため、以下のようなタイミングで発表します。

- ①初めてその火山が噴火した場合
- ②継続的に噴火をしている火山において、それまでの規模を上回る噴火を確認した場合

「噴火速報」は、気象庁HP、テレビ、ラジオなどで入手することができます。「噴火速報」を見聞きしたら、近くの岩陰に隠れる、シェルターや避難小屋に退避するといった緊急回避行動をとるか、直ちに下山する、入山を控え山から離れるといった退避行動をとるなど、身を守る行動をとるようにしてください。また、発表されるのを待って行動するのでは間に合わない場合もあります。噴煙や地鳴り、異臭など異常と思われる現象を感じたらすぐに避難を行い、地元市町村や警察などに連絡しましょう。